

桃山学院大学国際教養学部2014年度春学期公開講演会  
第3回「知るために、知らせるために、ドキュメンタリーを観て語る」

# 異国に生きる —日本の中のビルマ人—

日時:2014年6月9日(月)13:00~16:30

※開始時間にご注意ください

場所:桃山学院大学2号館ハイビジョンシアター(2-301)

映画「異国に生きる—日本の中のビルマ人—」上映  
上映後、**土井敏邦監督**トークセッション

◆映画「異国に生きる」(2012年/日本/日本語・ビルマ語・英語 /100分)について

1991年、ビルマ(ミャンマー)軍事政権の弾圧を逃れ、妻を祖国に残し日本に渡ったビルマ人青年チョウチョウソー(チョウ)。生きるためにレストランで働きながら、祖国で封じられた民主化運動を続ける日々。その後、妻ヌエヌエチョウとの再会がやると叶い、ビルマ料理店を経営しながら、日本での2人の亡命生活が始まる。第三国でやっと実現した14年ぶりの老父との再会。しかしその父の死の報にもチョウは帰国できなかった。日本滞在はすでに20年以上になり、暮らしも安定した。しかしそこはチョウにとって将来の保障もなく、祖国に貢献する役割も担えない“異国”であり、“自分の居場所”ではない。「家族に会いたい」「祖国で暮らしたい」という願いと、“祖国の民主化運動”のためにその望郷の想いを捨てなければならないという思い。その狭間で揺れ、迷ってきたチョウは、今の祖国の「民主化」をどう捉え、その中でどう生きようとするのか。

◆土井敏邦監督

1953年佐賀県生まれ。ジャーナリスト。

1985年以来パレスチナをはじめ各地を取材。1993年よりビデオジャーナリストとしての活動も開始し、パレスチナやアジアに関するドキュメンタリーを制作、テレビ各局で放映される。2005年に『ファルージャ2004年4月』、2009年には『届かぬ声—パレスチナ・占領と生きる人びと』全4部作を完成、第4部『沈黙を破る』は劇場公開され、2009年度キネマ旬報ベスト・テンの文化映画部門で第1位、石橋湛山記念・早稲田ジャーナリズム大賞を受賞。2012年1月公開の『“私”を生きる』(2010年)では、2012年度キネマ旬報ベスト・テン文化映画部門で第2位。本作は劇場公開3作品目。その他、東日本大震災後に制作された『飯館村第一章・故郷を追われる村人たち』(2012年)で「ゆふいん文化・記録映画祭・第5回松川賞」を受賞。主な著書に『アメリカのユダヤ人』、『沈黙を破る—元イスラエル軍将兵が語る“占領”—』(いずれも岩波書店)など。

写真© Masaya NODA

主催:

桃山学院大学国際教養学部 &  
メディア教育研究会

問い合わせ:桃山学院大学・庶務課学部事務室  
〒594-1198 大阪府和泉市まなび野1番1号  
TEL 0725-54-3131(代) FAX 0725-54-3203  
E-mail gakuuop@andrew.ac.jp  
URL <http://www.andrew.ac.jp>



桃山学院大学  
St. Andrew's University

※知るために、知らせるために、ドキュメンタリーを観て語る※

映画はその誕生の当初から、人々が集い、ともに鑑賞し、そして語り合うものとして世の中に訴えかけてきました。映画に映し出される人びとの人生や社会の諸側面から、私たちは国や時代を超えた学びを得ることができます。この会は、ドキュメンタリー映画を皆で鑑賞するとともに、その映画を作った監督をお呼びして、映画に込めた思いや制作エピソードを直に聞き、語り合うためのフォーラムの場です。

事前参加申し込み不要。どなたでも自由にご参加いただけます。